



Title	Japanese D3 lymph node dissection in low rectal cancer with inferior mesenteric lymph node metastases
Author(s)	産形, 麻美子
Journal	2014
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/30822">http://hdl.handle.net/10470/30822</a>

様式 (6)

## 学 位 審 査

学 位 番 号	乙第 2828 号	氏 名	産形 麻美子
審 査 委 員 会	主 査 教 授	亀岡 信悟	
<p>論文審査の要旨</p> <p>論文のタイトルは「Japanese D3 lymph node dissection in low rectal cancer with inferior mesenteric lymph node metastases」(下腸間膜動脈根リンパ節転移を有する下部直腸癌における D3 リンパ節郭清の意義に関する検討)である。</p> <p>【目的】現在、大腸癌取り扱い規約において Inferior mesenteric lymph nodes (以下、IMLN)は「下腸間膜動脈起始部より左結腸動脈起始部までの下腸間膜動脈に沿うリンパ節」と規定されており、直腸癌と S 状結腸癌に対して D3 郭清を行う場合に郭清すべきリンパ節とされている。しかし、下部直腸癌におけるその郭清効果や予後解析は不十分であり、R0 根治切除の意義に関して一定の見解が得られていない。今回著者は全国大腸癌登録情報を用いて、後方視的に IMLN 転移を有する下部直腸癌におけるリンパ節郭清効果について解析を行った。</p> <p>【対象と方法】大腸癌研究会全国登録に登録されている下部直腸癌 2743 例を対象とし、1. IMLN 転移例の予後因子、2. IMLN 転移 R0 症例(総リンパ節転移個数<math>\geq 7</math> 個)の予後を検討した。</p> <p>【結果】IMLN 陽性症例は 67 症例(2.7%)認められ、IMLN 転移 R0 症例 35 症例の予後は 5 年 RFS=50.8%、5 年 OS=61.9%であり、R1+R2 症例の予後(5 年 RFS=16.1%、5 年 OS=26.7%)と比し予後は良好であった(RFS: <math>p=0.0001</math>, OS: <math>p=0.0002</math>)。総リンパ節転移個数 7 個以上の症例に限定して予後比較を行ったところ、IMLN 転移(+)R0 症例の予後(5 年 RFS=53.9%、5 年 OS=68.8%)は、IMLN(-)症例の予後(5 年 RFS=54.6%、5 年 OS=57.1%)と比し、予後に明らかな差は認められなかった(RFS: <math>p=0.9515</math>, OS: <math>p=0.4621</math>)。</p> <p>【考察および結論】下部直腸癌における IMLN 転移例は、総リンパ節転移個数が多い傾向にあるが、根治切除がなされれば、一定の予後が期待できることが確認された。以上より、IMLN 転移を有する下部直腸癌において、根治性の得られる D3 リンパ節郭清の意義はありと考えられた。</p> <p>以上、臨床的に極めて価値ある論文である。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表)【学校教育法学位規則第 8 条】</p>			

